

討論メモ

「トランプ就任演説と日本の対応」

令和 7年1月21日

森田晃司

1月は、この朝、行われたばかりのトランプ大統領の就任演説とそれに呼応すべき日本の対応について考えてみました。

演説の要点は下記のとおりです。

演説は「米国の黄金時代が今始まる」で始まりました。

米国第一で取り組む。政府と司法省による不当な武器化は終わる、

直面する課題は多い、長年続いた腐敗した政権の残した課題、

海外の紛争に関与するのに、自国の国境を守らない、犯罪者が多数出入りしている、

自分は8年間強大な敵と戦ってきて、様々な経験を積んでいる。先の銃撃で生き延びたのは、自分に使命があるとみている神に救われた。

黒人、ヒスパニックの人々から支援いただき、感謝している、

祖国を忘れない、故郷を忘れない、神を忘れない、

南部国境に軍隊を派遣して取り締まる、不法移民の強制送還を開始する、

政権を挙げてインフレ対策を行う、インフレは過剰支出とエネルギーの高騰のせい→エネルギーを掘りまくる、

EV推進をやめて、自動車産業の復活を図る、

関税の見直しを行う、

政府効率省を設立して無駄な支出を抑える、

政府による検閲をやめ、言論の自由を取り戻す、

都市に法と秩序を取り戻す、

ジェンダー、ダイバーシティー政策の見直し、

などを行う。

また、この日、署名済みの主な大統領令は下記の通り。

パリ協定からの離脱、

WHOからの離脱、

1月6日議事堂乱入事件の逮捕者1500名の恩赦、

連邦職員の在宅勤務を改め、職場復帰する。

2. 次いで、出席者六名による様々な角度からの意見交換を行い、下記のように

な意見が出されました。

・前は、民主党議員の半数がトランプ就任式に欠席したが、今回はどうだったのか？

・イタリア首相、アルゼンチン大統領などの異例の参加もあった。今までの常識は通じなくなる。

・Tik Tok への対応を見ると、トランプは中国重視、日本軽視で来るのではないかと、

・軍事費は3%への引き上げを要求してくる可能性もある。

・関税の引き上げは米国民の負担になる部分もあるので、簡単には実行できない、脅しに使ってくるのではないかと。

・トランプの敵は強大、思い通りには行かないのではないかと。

・ダウ4万ドルは行き過ぎ、暴落は近いのではないかと。

・日本には優秀な中小企業が多い、日本復活の源になれるのではないかと。

・しかし、ほとんどの中小企業は赤字で経営難、多くは期待できない。

・日本は今が一番良い状態だ、経常収支が大幅な黒字で内部留保が500兆円に達して、賃上げの原資も豊富だ。

・日本企業は内部留保を溜めるばかりで、投資に向ける積極性に欠けている。

- ・竹中の悪政ビッグバンで企業は内部留保に頼らざるを得ない時期があった。
- ・日本の幅広い分野での様々な技術は凄い、中国には到底真似はできない。
- ・一带一路も至る所でぼろが出始めている。

- ・日本は野放図に移民を受け入れているが、せめて受け入れのルールは作るべきだ。

- ・幕末の日本への侵略を防いだのは、日本人の戦意だった、英国などは日本と戦う気は全くなかった。

- ・戦後の日本人が失ったものは戦意だ。

- ・30分のトランプ演説の中で、15回のスタンディングオベーションがあったが、最も盛り上がったのは、神がトランプの命を救ったという場面だ。

以上